

## 学習評価で大切にしたいこと

### 学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価

授業における学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価します。道徳性そのものを評価することはできません。また、教師は指導のねらいや内容に照らして児童生徒の学習状況を把握し、授業改善に生かすことが児童生徒の道徳性を養うことにつながります。

### 個人内評価として記述による評価

個人内評価は他者との比較によるものではないため、個人の伸びや努力を認めやすくなります。児童生徒が自らの成長を実感して、より意欲的に学習へと向かうための評価です。また、道徳性を養うことを目標とする道徳科では、観点別状況評価や数値ではなく、記述で評価を行います。

## 指導と評価の一体化

道徳科の評価は、道徳性を養う学習活動に着目して、その学習状況や児童生徒の成長の様子を見取るものです。そのため教師は学習指導の過程で、期待する学習状況を具体的な姿として明確にもち、評価の視点とすることが必要です。道徳科では、自己や人間としての生き方について考えを深めるために、特に次の二つを重視します。

- ① 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
- ② 一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展しているか

学習活動の中で、児童生徒の努力や成長等が見られた場合は、積極的に受け止め、認め励まして次の成長へとつなげます。また、期待する児童生徒の姿が見られなかった場合は授業を見直し改善を図ります。これが道徳科における「指導と評価の一体化」です。

## 学習評価の進め方

学習評価を進めるに当たっては、評価の妥当性や信頼性を保つため、児童生徒の学びの姿を多面的に見取った評価情報を収集・蓄積し、根拠とすることが必要です。また、蓄積した資料は、児童生徒の更なる成長のために、通知表や指導要録等にどのように記述するのかという方向性を、校内で検討・共有することも大切です。

### 【道徳科の授業】

- ・ 道徳ノートやワークシート、発言や発話、表現活動等の評価方法を組み合わせ、児童生徒の変容を捉える。
- ・ ファイリング、ポートフォリオ、エピソード記録等で評価情報を蓄積する。
- ・ 一単位時間ではなく、学期や学年等、一定の期間のまとまりで学習状況や成長の様子を評価する。

### 【通知表や個人面談等】

- ・ 授業の中で見られた学習状況を具体的に記載したり、伝達したりすることで、児童生徒や保護者に成長の様子が伝わるようにする。
- ・ 成長の様子を児童生徒や保護者と共有することで、学習意欲の向上や学習改善につなげる。

### 【指導要録】

- ・ 年間を通しての児童生徒の学習状況や成長の様子を、蓄積した評価資料を根拠に記載する。
- ・ 記載した事項は、一人一人の成長の過程を校内で共通理解する資料として活用し、次年度へ引き継ぎ、教師の指導に生かす。

## Point

### 適切な評価を行うために

#### 小学校において

児童を伸ばす評価はどのようなものかについて、校内で検討し、各担任が進めている学習評価の情報交換をしたり、成長が見られた児童の姿を共有したりする等、改善につなげていきましょう。

#### 中学校において

指導要録等により小学校の学習状況を引き継ぎ、指導に生かします。また、自分の生き方を振り返り、人間としての生き方への「考えの深まり」が評価できるような授業づくりが重要です。